

令和6年度 江別市子どもの読書活動推進計画（第4期）推進状況報告書

計画期間 令和 6 年度～ 令和 10 年度

基 本 理 念： 創造力を豊かなものとする読書活動を江別市のすべての子どもたちがあらゆる機会と場所において、自主的に行うことができるよう、家庭・地域・学校等と連携を進め、積極的にその環境整備を図ります。

基本目標1：社会全体での子どもの読書活動の推進

【基本目標1で目指すこと】

子どもの読書習慣を定着させ、自主的な読書活動を推進するためには、家庭・地域・学校等、社会全体で読書を推進する取組を進める必要があります。

そのためには、家庭・地域・学校等の役割を明確にするとともに、子ども自身が読書の楽しさを知り、きっかけを作れるよう、関係機関や団体等と連携し協力しながら、乳幼児期からの子どもの発達の段階に応じて、多様な取組を進めていきます。

◆成果指標1 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たり10分以上読書する子どもの割合

現状値（R4年度）	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	目標（R10年度）
小学校6年生 64.3%	(調査未実施)					→
中学校3年生 47.9%						→

指標：全国学力・学習状況調査

◆成果指標2 情報図書館における18歳以下の利用者一人当たりの年間図書貸出冊数

現状値（R4年度）	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	目標（R10年度）
4.4冊	4.3冊					→

指標：江別市教育委員会調査

◆成果指標3 情報図書館が行う読み聞かせの参加人数

現状値（R4年度）	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	目標（R10年度）
2,611人	2,375人					→

指標：江別市教育委員会調査

◆成果指標4 満1歳未満の乳児とその保護者を対象とした「親と子の絵本事業」における、対象家庭への訪問割合

現状値（R4年度）	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	目標（R10年度）
96.5%	97.8%					→

指標：江別市教育委員会調査

■前年度の取組内容、成果指標の動向・分析及び次年度の推進の方向性

・情報図書館では、工夫を凝らした展示や特集コーナーの充実をはじめ、「としょかんまつり」などのイベントや読み聞かせを実施し、子どもが本に親しむ機会を提供しました。これらの取組を通して、子どもの読書への関心や興味を高め、読書活動の推進に努めました。

・各学校においても、ボランティアによる読み聞かせや朝読書などを通じて、児童生徒がより多くの本に触れ、読書を身近に感じられるよう、継続的に取組を進めました。

・成果指標1は、全国学力・学習状況調査を基にしていますが、令和6年度は関連する設問が実施されませんでした。令和7年度には再び設問が設けられたことから、引き続き、本指標により推移を把握していきます。

・成果指標2は、現状値からわずかに下回ったものの、ほぼ横ばいで推移しており、子どもの読書活動が概ね習慣化されていると考えられます。今後も読書意欲を高める取組を継続しながら、貸出冊数の向上を図っていきます。

・成果指標3は、現状値より減少しました。主な要因として、本館の設備改修工事に伴う休館による開催機会の減少に加え、おはなし会（読み聞かせ）の開催案内を主に広報えべつ・館内掲示で行っていたことにより、対象者への周知が不十分であったことも考えられます。今後は従来の周知に加えてSNS等も活用し、より幅広い層への情報提供に努めます。一方で、ボランティアの協力もあり、読み聞かせのための人員及び運営体制は安定していることから、引き続き、手遊びや季節行事にちなんだ工作を取り入れるなど、子どもが飽きずに楽しめるよう内容を工夫し、参加者の満足度向上を図っていきます。

・成果指標4は、高い数値水準で推移し、各家庭への絵本配付を通して、親子で本に親しむ機会を継続的に提供することができました。次年度以降も、情報図書館、各学校、保健センター及び子育て支援センターが連携し、読み聞かせなどを通じて子どもが本にふれあう機会を広げるとともに、引き続き「親と子の絵本事業」を通じて、保護者が乳幼児期からの読書の大切さを考える機会を充実させていきます。

・今後も、家庭、地域、学校などが連携し、子どもの読書活動を推進する取組を継続していきます。

基本目標2：子どもの学びを支える読書環境の整備

【基本目標2で目指すこと】

全ての子どもが、どこに住んでいても、好きな本を手に取り、必要な資料を調べることができる、望ましい読書環境づくりを進める必要があります。

そのためには、北海道、他市町村、学校・関係機関・団体等が相互に連携しながら、計画的に子どもの学びを支える読書環境の整備を進めていきます。

◆成果指標1 学校図書館における児童生徒一人当たりの年間図書貸出冊数

現状値（R4年度）	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	目標（R10年度）
22.4冊	22.9冊					

指標：江別市教育委員会調査

◆成果指標2 学校図書館図書標準を達成している学校の割合

現状値（R4年度）	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	目標（R10年度）
76.0%	96.0%					

指標：江別市教育委員会調査

◆成果指標3 学校司書（巡回）、支援司書による学校への対応回数

現状値（R4年度）	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	目標（R10年度）
725回	1,033回					

指標：江別市教育委員会調査

■前年度の取組内容、成果指標の動向・分析及び次年度の推進の方向性

・情報図書館では、巡回司書及び支援司書を各学校へ派遣し、朝読書や調べ学習などにおける読書活動を支援しました。巡回司書は計画的に学校を巡回し、支援司書は主に館内において、学校からの選書要望等に対応するなど、学校図書館の運営を支援しました。また、情報図書館では、本の取り寄せなどを通じて、北海道や他市町村と連携し、子どもの読書活動を支援しています。

・学校図書館では、図書標準の達成を目指し、蔵書率の低い学校から継続的に図書の整備を進めました。また、情報図書館でも児童書等の充実を図り、児童生徒が必要な本を手にしやすい環境づくりに努めました。

・成果指標1は、現状値を上回りました。これは、各学校での読書活動の充実に加え、巡回司書や支援司書による選書支援や読書環境の整備が、貸出冊数の増加に寄与したものと考えられます。

・成果指標2も、現状値を上回りました。これは、蔵書率の低い学校から計画的に図書整備を進めたことが成果に結びついたものと考えられます。なお、図書標準が未達成の学校においても、蔵書率はおおむね90%台で推移しています。

・成果指標3も、現状値を上回りました。これは、令和4年度まで3名であった巡回司書を令和5年度から4名に増員し、派遣体制が強化されたことにより、令和6年度も各学校への支援回数や内容の充実につながったものと考えられます。

・次年度以降も、子どもの知的好奇心と読書意欲を育むため、読みたい本を自由に手に取り、必要な資料も調べることができるよう、情報図書館及び学校図書館の蔵書整備を計画的に進めます。また、情報図書館と学校が連携し、学校図書館の環境整備を推進するとともに、巡回司書と支援司書による専門的支援を通じて、朝読書などの読書活動や調べ学習などの教育活動を継続的に支援していきます。